



科学の甲子園全国大会へ意気込み

酒田東高チーム2年連続県代表

茨城県内で来月に開催される科学技術振興機構(JST)主催「第12回科学の甲子園全国大会」で、予選会に当たる県大会を制し2年連続で本県代表として出場する酒田東高校(大山慎一校長、生徒491人)のチームメンバー8人らが16日、酒田市役所を表敬訪問し、丸山至市長、佐藤元教育次長に全国大会での活躍を誓った。

ベストな状態で臨みたい

科学好きな生徒に活躍の場を提供することで、その裾野を広げるとともに、トップ層をさらに伸ばそうとJSTが2012年度から

毎年実施している大会。昨年度、現在の3年生8人で組織した同校チームは庄内地域から初めて全国大会に出場。数学分野で満点を獲得し全国1位となったほか、総合成績でも19位に食い込む健闘を見せた。

丸山市長(後列左から3人目)を囲む酒田東チームメンバー。右端は大山校長

本年度の県大会は昨年10月に行われ、同校を含め県内17校から1チームずつエントリー。理科4領域と数学、情報の知識を問う「筆記」、モーターとプロペラによる風を動力とするウィンドカーを制作し、1・2位のコースを往復させるタイムを競う「実技」の合計点で競った。結果、2年生8人による同校チームが優勝し、2年連続で全国大会出場を決めた。

この日は大山校長、担当の樋口駿教諭の引率でメンバー8人が訪問。大山校長が県大会優勝を報告し、「女子生徒3人が加わり、チームとして力を増した。先輩チームに負けまいと張り切っており、より高みを目指し頑張ってくれると思う」と述べた。

丸山市長は「2年連続の全国大会出場は、日頃から皆さんが頑張っていることの証し。本当に誇らしい。酒田の名を全国にとどろかせたい」と激励。その上で将来の夢について問い掛け、メンバーは「飛島で医療に従事したい」「酒田市出身の中島春雄さんがスーツアクターを務めたゴジラが好き。映画業界に進みたい」「人の生活に役立つ仕事をしたい」と答えた。